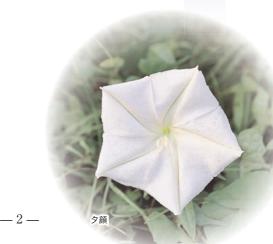


『いつも人を喜ばせる』 そのことを心がけましょう。

山 首 鈴 木 正 修



布施の徳

毎年、杉山先生のご命日に団扇をご供養させてまいとし、すぎやませんせい。 めいにち うちわ 血を吸う「ヤブ蚊」へも布施の行

扇になったのか、詳しくは私も知りません。 頂いております。 いつ頃からどういった理由で団 日にったっ

奈良にある律宗の唐招提寺も毎年5月19日に「団なら 扇まき」の行事をして、団扇を集まった人々に供った。 上人に聞いておけばよかったと思っていますが、

養するそうです。そのいわれは鎌倉時代の覚盛上

方だったそうです。 もありませんから窓も扉も開け放して法要をして 覚盛上人は戒律をよく守られた、 ある夏の法会の時、 慈悲の深いお 昔は冷房

人にあります。

いました。当然蚊が入ってきて、 覚盛上人の所にかくじょうしょうにん

は今布施をしている。血を与えることも立派な布いまふせ も来ました。お弟子さん達が蚊を追い払おうとす ると覚盛上人は「そんなことをしてはいかん。私

施行だ」と、たしなめられたそうです。 杉山先生にも同じような逸話があります。ヤブ

し待って、飛び去ろうとする蚊に「もういいかね」 と言われたそうです。

5月19日に覚盛上人が遷化された時、近くの尼がった。からどうでは、せんげ 敷居に住む虫をも救う

— 3 **—**

まうにして始まった団扇の供養が毎年続いているようにして始まった団扇は使わずに、蚊が来れば血っと、あの世でも団扇は使わずに、蚊が来れば血っと、あの世でも団扇は使わずに、蚊が来れば血を吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、そのを吸わせられるのではないかと思いますが、

の旅行者が蚊取り線香を持っていくと、すごく嫌教のお坊さん達は、小さな虫を踏み殺さないよう教と、下を向いて歩いています。だから日本からにと、下を向いて歩いています。だから日本からのです。

の命にまで心を配られました。例えば障子の開けるいの命にまで心を配られました。例えば障子の開けが出先生も、虫ケラと人々から嫌われる生き物がまざやませんせい。

が

るそうです。

しいのだよ」と常に言っておられたということでり、あるいは憩っている。荒々しく開け閉めしてり、あるいは憩っている。荒々しく開け閉めしてり、あるいは憩っている。荒々しく開け閉めしている。熱湯などは滅多に流すものではない。流しでも、熱湯などは滅多に流すものではない。流しても、熱湯などは滅多に流すものではない。流しても、熱湯などは減多に流すものではない。流しても、熱湯などは減多に流すものではない。流しても、熱湯などは減多に流すものではない。流しても、熱湯などは減多に流すものではない。流しているなりにない。

— 命を大切にする -

す。

近づいて聞いてみると「蝉の命は短いからな、もいがしていました。何を言っているのかなと思い、蝉を取るのですが、子どもに何かを言ってすぐに蝉を取るのですが、子どもに何かを言ってすぐに興正寺に蝉取りに行きました。するとある家族が、興正寺に蝉取りに行きました。するとある家族が、

ました。そして、取っては逃がし、取っては逃がう離してやっていいだろ」とお父さんが言ってい

していましたが、これは良いことだと思い、私も

真似をさせて頂きました。

だと思います。生き物の命を大切にすることは素晴らしいこと

― すべての命を生かす

たいのは、では、「とうないにない。」というでは、これで、大きで成功したければ、諸仏善神に守護されなければ、せいとうを出た生は「幸せになりたければ、そして、人が記述されば、

かれるもとですが、生き物の命を尊び、生き物も徳を積み、罪障消滅をすることが諸仏善神に好い。

食べ物も、とにかくすべての物を生かすことはと

ても大切です。

の畑に捨てて本部に帰って来られたら「あれは腐い畑に捨て、世れぶ、かれているのでは、神間山上人が腐ったたくわんを臥竜山ある時、御開山上人が腐ったたくわんを臥竜山

われ、もう夜になったのに臥竜山まで取りに行かっても食べられるから取っていらっしゃい」と言

した。それは「ご飯がもう一杯食べられるほどおて帰られるとそれを料理し直し、食膳に出されまから、そのたくわんを御開山上人が持っれたそうです。そのたくわんを御開山上人が持っ

れました。御開山上人は杉山先生に倣い、大荒行そのように、本当に物を大事にし、物を生かさいしかった」と御開山上人は言っておられます。いしかった」と御開山上人は言っておられます。

の修行中こんなことを言われています。

積める。だから、 そういう考え方ではなく、米に命を与え、米の命いののでは、このこのではない。 を全うしてやる、と考えた方がいい。米を頂いて いる我々は、米のおかげで働くことができ、 ら『もったいないことだ』と考えていた。 「自分は今まで、ご飯をこぼしたり捨てたりした 一生懸命徳を積んで働き、 しかし 徳 が

このように考えると、すべての命が生きてくる

で、

命を自分の中で全うさせてやろう」

と思います。

人を喜ばせる布施行

実践として、次から次に物を施されました。 うことをいつもおっしゃっておられました。 杉山先生はすぎやませんせい 「周りの人を喜ばせるように」 とい その

す。

生はは から 祖父江先生も一枚しまが、たせんせいまいまか 江先生が杉山先生に自分の羽織を貸されました。 場であげられたそうです。ですから、羽織が一枚ほ 出かけなければならないので困っていると、祖父で もなくなってしまったことがありました。 ある日、 「あぁそうかね」と言って、その羽織をその 11 į, 羽織ですね」と言われました。杉山先はおり 杉山先生が出かけられた先で信者さん すぎやませんせい で か羽織を持 しかし

った時 ませんか」と言うと「あれはもう無い。 後日自分が羽織を着て法座に出 「申しわけありませんが羽織を返して頂け かけようと思 ○○さん

え施してしまわれたのか」と驚いたというお話で おっしゃられました。祖父江先生は「他人の物されっしゃられました。祖父江先生は「他人の物さ いですね』と言われたからあげてきた」と

が

っていなかったの

ます。豊 ―― ささやかなご

ました。大高先生もとても喜んで下さいました。ました。大高先生もとても喜んで下さいました。 はいるないの話の真似事をしたことがあります。豊本なりにお邪魔した時、大高先生が「正修上人、川支院にお邪魔した時、大高先生が「正修上人、川支院にお邪魔した時、大高先生が「正修上人、川支院にお邪魔した時、大高先生が「正修上人、川支院にお邪魔した時、大高先生がでしたが、差し上げないた記念の数珠で大切な物でしたが、差し上げないた記念の数珠で大切な物でしたが、差し上げないた記念の数珠で大切な物でしたがあります。豊本なりには、「大高先生もとても喜んで下さいました。

たお数珠です。棺の中に入れてあげましょう」とに小森先生が「大高先生がとても大切にされていに小森先生が「大高先生がとても大切にされているの後、大高先生がご遷化された時、納棺の際

人を喜ばせよう」と思って普段から行動することでした。とても嬉しかったことを覚えています。でした。とても嬉しかったことを覚えています。でした。とても嬉しかったことを覚えています。

これははなり、これには、これでいる信者さらなとくかいからなされんし、 べっかん けいざい

「私は三徳の修養をするようになって、まず今日んの体験談のお話をさせて頂きます。

いろいろな無駄や寒心すべき行ないに気づき、慄いろいろな無駄や寒心すべき行ないに気づき、慄いるいの自分の生活を反省してみました。そして、

たらなるだけ品物の悪い物や小さい物をよって、悪い行ないは治すようにしました。八百屋に行った。はました。それからは妻と共に語らい合い、然としました。それからは妻と共に語らい合い、然

すれば後から買いに行った人達は良い品物を買うそれをねぎらず買ってくるようにしました。そう

れるし、ひいては八百屋さんも喜ぶでしょう。すことができ、その人達を間接的に喜ばせてあげら

べて買い物はこんな風にしてやることに改めまし

たし

が大切だと思います。

またこんな話もあります。

ませられたらと思って実行しております。 に釣銭のいらないように6銭の用意をしておくこ 私はこれを友達に聞いてから、必ず電車に乗る前 る。こんなのは番外だけれど、それでも50銭札な その友達が とにしております。 は6銭の電車賃を払うのに、 などの時、 んかで出す人はいくらでもある』と申しました。 「私の友達に市電の車掌をしている人があります。 これで少しでも車掌さんに迷惑をかけずに済 電車賃の釣銭を出す時だ。甚だしい時ではしょうに、このすべんだという。 『職務上一番困るのはラッシュアワー こんなささいなことですけれ 10円札で出す人がい 私は電

車に『乗ってやるぞ』という気持ちより

『電車に

乗せて頂く』という気持ちが大切だと思っており

素晴らしい心がけだと思います。

人を幸せにする

自分が幸せになるの?』と思うかもしれません。 ことがあってもすぐに腹を立てなくなりました。 御存知ですか。ある人はこの法則を知って、嫌なばだった。 信者さんの体験談に通じるようなお話が載ってい でもちょっと思い出してみてください。初めて電 を幸せにすることです。 は社会に貢献すること。 ものに感じられるようになりました。 またある人は、普通で単調な毎日がワクワクした ました。まず巻頭の言葉です。 「誰でも簡単に幸せになれるたった一つの法則を 「まわりの人を幸せにする55の物語」という本に、 もっと簡単に言うと、人 『人を幸せにしてなんで その法則と

た 日、 もっと幸せな所に変わるのではないでしょうか。 今よりもっと幸せになるのではないでしょうか。 車で席を譲った日、床に落ちているゴミを片付け みんながささいな変化を起こし始めたら、世界は 日々小さな幸せを感じられれば、あなたの毎日は いた人、みんなが幸せな気分になれたはずです。 れ あなただけではありません。席を譲られた人、 でしたか。 いな床の部屋で過ごせた人、周りでそれを見て なんだかすがすがしい気持ちになりません たぶんその時、すがすがしかったの き は

> さい」と呼びかけ、 ト上のサイトで「いいことをしたら書き込んで下 『国際救助隊』 は、 この本の著者がインターネッ それに応じて書き込みをした

人達のことです。 が「皆さんいいことを思いついたり、いいことを したらどんどん救済会に教えてください」と呼び 先程の法音寺の信者さんの体験談も、たいけんだんにいる。

杉山先生

かけられたことにより、集まってできたものです。 それでは、サイトに投稿されたものをいくつか

紹介しましょう。

「高速の料金所で、いつも黙々と精算して下さる」こうそく、いうからだけ、

大きな声ではいえませんが、実はもう世界を変え

る為に動き始めた人達がいるのです。

係りの人にかける言葉を『どうも』からかかった。 よかった。これからは毎回 とう』に変えた。笑顔になる人が多く、 『ありがとう』と言い 気持ちが 『あ りが

結社、その名を

『国際救助隊』

と言い、人や社会

彼らは秘密

ます」

行動しています」

に貢献することを喜びとして、

今できることから

「おしゃれな花屋さんのレジに列が出来ていまし

男性がいらしたので『お先にどうぞ』と列の順番だれば、 時計を見ながらちょっとソワソワ気味の若いとけば、みのながらちょっとソワソワ気味の若い

ちらもウキウキした気分になりました」 いたら『はい、そうです』と嬉しそうでした。こ

を譲りました。そして『プレゼントですか』と聞

「先日、閉店間際の回転寿司屋に行きました。私にない、ないのはいかいない。

はいつも回っている寿司を見ながら『新鮮な寿司

がほしい』と席にあるモニターでオーダーしてい

が、少しくたびれたようなハマチに手を出したの に取りません。 ました。 けれど妻は毎回、回っている寿司しか手 あまり気にしていなかったのです

> よ』と言うと『これ、このままにしておいたら捨 てられちゃうじゃん』と言います。私は思いまし

で『こっちでオーダーすると活きのいいのが来る

た『まさかお前も国際救助隊の隊員か』と」

人への感謝の気持ちが伝わればいいなと、 「なにかおいしい物を食べた時は、作ってくれた

作ってくれた時、実際すべてがおいしいから自然です。 『おいしい』と言うようにしています。特に母が もつ

とおいしく感じられます」 に言えます。それに『おいしい』と言えば、

小さなことですが、このような心遣いが自分と